

保健学専攻修士課程（看護・助産学コース）カリキュラムマップ

科目区分	修士課程（助産学科目）	修士課程（看護学科目）	修士課程（看護学科目）	修士課程（看護学科目）	修士課程（看護学科目）	修士課程（看護学科目）	修士課程（看護学科目）	修士課程（看護学科目）	修士課程（看護学科目）	研究指導
凡例	(再掲は青色表示)	必修科目	必修科目	必修科目	必修科目	必修科目	必修科目	必修科目	必修科目	研究指導

学期	科目	修士1年生				修士2年生			
		春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
D-1 実践	MD1-3チーム医療の中で助産師の役割および助産師の自律性や責任を認識し、リーダーシップを発揮することができる。				助産管理Ⅰ	助産学実習Ⅳ		基礎助産学Ⅱ	
	MD1-2様々なライフステージにある女性とその家族を対象に、性と生殖の健康に関する課題を目的とした科学的根拠に基づく創造的で豊かな実践を展開することができる。			助産学実習Ⅰ	助産学実習Ⅱ	基礎助産学Ⅱ	助産学実習Ⅲ		看護組織・マネジメント論
	MD1-1高度先端技術に関する知識を理解し、臨床で実践できる。				助産診断・技術Ⅴ	基礎助産学Ⅱ	助産学実習Ⅳ		看護学特別研究
C-2 評価・創造	MC-2-2助産・母子保健領域に関する現象から得られた情報を分析・統合し、改善への原案を考案することができる。			助産学実習Ⅰ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅲ	助産学実習Ⅳ		看護組織・マネジメント論
	MC-2-1助産・母子保健領域で起こる現象の多様な課題を明確化し、科学的・論理的思考に基づいて、解決に向けた研究を遂行することができる。	看護研究方法論Ⅰ							看護学特別研究
	MC-2-1助産・母子保健領域で起こる現象の多様な課題を明確化し、科学的・論理的思考に基づいて、解決に向けた研究を遂行することができる。	看護研究方法論Ⅱ	発達看護学特論Ⅰ						発達看護学特論Ⅱ
C-1 適応・分析・解釈	MC-1-7保健学領域に共通する論理的思考を身につけ、問題解決に必要な情報収集と集約する能力を身につける。	看護研究方法論Ⅰ							看護学特別研究
	MC-1-4助産・母子保健領域の基礎的なかつ包括的専門知識をもとに、現象から得られた情報を分析・解釈することができる。	助産診断・技術Ⅰ	助産学実習Ⅰ	助産学実習Ⅱ					
	MC-1-5少子高齢化・高齢化などの社会の変化に対し、自らの専門領域における対応のあり方について考察できる。				助産管理Ⅰ	助産管理Ⅱ	保健・医療とデータ科学		
B-1 知識・理解	MC-1-4高度化する医療環境に対応できる能力（高度実践能力・超高度診断・合併症診断・新生児救急蘇生法、高度生体補助医療等）を身につける。	助産診断・技術Ⅳ		助産診断・技術Ⅴ	基礎助産学Ⅱ	助産学実習Ⅳ			
	MC-1-3助産・母子保健領域で自立して教育・指導できる。			助産管理Ⅰ	助産管理Ⅱ	看護教育論			
	MC-1-2助産・母子保健領域で自立して学び、科学的・論理的に思考し、研究することができる。	看護研究方法論Ⅰ	看護研究方法論Ⅱ	保健学研究論					看護学特別研究
A-2 協働	MA-2-2保健医療チームの一員として、高い倫理観と国際性豊かな態度とコミュニケーション能力を養う。						地域母子保健Ⅱ	基礎助産学Ⅲ	
	MA-2-1豊かな人間性と高い倫理観を持ち、生命の尊厳と性と生殖に関する権利を擁護する態度を身につけ、対象者の心を理解する深い感性を身につける。	基礎助産学Ⅰ			助産管理Ⅰ	助産管理Ⅱ	地域母子保健Ⅰ	地域母子保健Ⅱ	基礎助産学Ⅲ
	MA-1-2自ら進んで助産・母子保健領域の課題に取り込む自律性を持ち、それを広く地域や国際社会に還元することができる。		発達看護学特論Ⅰ	保健学研究論			国際社会とチーム医療		発達看護学特論Ⅱ
A-1 主体的な学び	MA-1-1豊かなライフステージにある女性とその家族を対象に、性と生殖の健康増進に寄与する深い意志を身につける。				基礎助産学Ⅰ				
学期	修士課程ディプロマポリシー	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
学期	修士課程ディプロマポリシー	修士1年生				修士2年生			
アセスメント・プラン		「助産学専門基礎教育」期			「実践・発展・統合」期				最終公開審査
研究指導体制		臨床実習前の評価			学生の研究課題に応じて指導教員1名、副指導教員1名を定め、ゼミ形式で、週1回程度の頻度で研究指導				助産師国家試験